



令和6年度から全ての射水市立小中学校が、学校ボランティア（以後 学校ボラ）導入と学校運営協議会（以後 運営協議会）設置により、「コミュニティスクール（以後コミ・スク）」として教育活動をスタートしました。 ※中太小は、学校ボラを先行的に導入しています。

「教育は学校の（先生の）仕事」と認識されがちだったものを、多様化する価値観、激変する社会の動きに対応し「保護者や住民の意思や教育力を加えて」三者が一体となって「地域の総意としての教育」を展開しようとする取り組みです。

このたよりでは、学校ボラや運営協議会の動きなどに加え、子育てや教育に関する話題、状況などもお伝えしてまいります。

皆様のご意見もお待ちしております。

これまでの活動報告

1 学校応援ボランティアについて

12月20日現在、登録者35人、学校から要請26件、延べ活動者71人です。

活動としては、地域探検の見守り、家庭科の調理や裁縫学習、算数の算盤学習の補助、畑作りや収穫作業の協力など多岐にわたります。

先生方は授業の全体指導や進行を行い、ボランティアはサポートが必要なグループや子どもの補助として活動します。細かなところにも目が行き届き、学力向上や安全確保に役立っています。

協力いただいた方々は、学習の様子や個々の児童の発達状況を理解でき、有意義な時間を過ごせたようです。（右枠参照）

2 学校運営協議会について

第1回目：4月25日

委員の委嘱、学校の教育計画についての質疑、そして協議会の方向性について意見交換をしました。

地域の代表で構成される「運営協議会」は学校から教育計画の説明を受けるだけでなく「教育計画の承認」を行います。「承認」をすることで、学校が地域の総意（教育の意思）により運営されていくことになるので、学校だけに教育を任せるのではなく、地域の子供たちのよりよい成長のために、住民として、地域として、できることを考え実施することが今後の課題になるということを委員全員で共有しました。

第2回目：6月18日

学校の教育計画の進捗状況の説明と質疑、地域の取り組みについて協議しました。

中太小では年度当初に承認された教育計画に基づいて着実に指導が展開されていることを確認しました。

ボランティアの感想

- ・子供たちが熱中して取り組みぐんぐん高まっていく姿を見て嬉しかった。
- ・先生の板書がわかり易かった。子供たちも真剣に取り組んでいました。
- ・児童からの挨拶でさわやかな気持ちになった。
- ・初めてカッターを扱う子が多いので、多くの目で見守られてよかった。
- ・先生のきめ細かい指導で、子供たちは安全にカッターを使うコツをつかんだようだ。
- ・ミシン縫いにはやはり補助の人が必要だと感じた。
- ・散策中、花や虫など関心のあることや知っている道などをたくさん教えてもらい楽しかった。

現代社会の流れとして「個」を優先する傾向が強まっていますが、中太、南太両地域に於いても地域の親密さが薄れることによる子育てや教育についての課題が提起されました。

学校だけで解決できない場合は、さまざまな相談先と連携して解決に取り組む仕組みがあるそうです。

子育てや教育相談の事例として、親や子が孤立し困っておられるケースがいくつもあるそうです。多くの委員から「中太小は信頼に足る学校だと考える」との意見があり、そうした理解が広がるように、委員はそれぞれの立場で地域に伝えるよう力を尽くしていこう、ということで意見が一致しました。

また、（学校だけでなく、地域でも）集団で取り組むべきさまざまな活動の場に於いて「自己中心的な言動」が広がりつつあり、それを危惧する意見も多数あり、地域でも注意を払っていく必要があることを委員で共有しました。

第3回目：10月5日

児童の言動の状況や「学力学習状況調査」について学校から説明を受けました。まだ改善すべき点もあるとのことでしたが、教育活動が安定して展開されているようです。特に、全教職員が「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて、さまざまな方策を講じている事例が紹介されました。委員たちは納得すると共に、いっそうの努力を要請しました。

協議では子どもたちの「粗野な言動」「メディア機器利用」について、地域を挙げて注視していかなばならない状況にある、との共通認識に立ちました。

状況や相手のこと（TPO）を考えない言動が争いの原因となったり、他者を傷つけたりすることになったりして、先生方が、時に保護者も交えて、幾度も長時間をかけて解決しなければならないことも多々ある、ということがわかりました。

また、電子機器やSNS等の利用については、子どもの精神や視力などに多大な影響を与えているという各機関や研究者からの発表、報告が示され、それを与える保護者や家族は十分に配慮をする必要がある、という意見が多くありました。

学校運営協議会委員
会長 江尻泰将
副会長 秋山正行
委員 大門秀司
仙福晴樹
高安和代子
山沼 博
小川一代
柴田淳子
水上澄雄
井林 緑
田島 隆
澤井達司
鮎田いづみ

○ たよりの名称「子育て三輪車」の理由は？

小中学校は「義務教育学校」です。

この「義務」とは「子どもが学校に通う義務」ではなく、「父母や保護者」が「教育を受けさせる義務」を指します。（右枠参照）

各ご家庭では、お子さんが自ら学び判断し正しく行動できる人となるよう一生懸命に教育していらっしゃると思います。

教育の「第一義的（根本となる）責任」は保護者にあり、学校（行政を含む）、教師はそれを支援します。

子どもがペダルを漕いで進むとき前輪（保護者）は子どもと一体となって方向を示し、地面に力を伝えます。学校と地域二つの後輪は、倒れないよう、方向を誤らないよう支えます。

カメラの三脚、建物のトラス（三角の骨組み）構造等の三点支持された物事は形が崩れにくく堅固です。保護者と学校、地域の三者が力を合わせ、中太閻山小学校で、安定して良い教育が展開されるようにとの願いを込め「子育て三輪車」と命名しました。

教育基本法（抜粋）

第五条

国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。

第十条

父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。